

会員の皆様へ 年頭のご挨拶

日本包装管理士会
会長 山田 孝志

明けましておめでとうございます。

日本包装管理士会会長の山田孝志です。今冬の東京は木枯らしも吹かず、暖冬と言われ、風のない陽だまりは春を思わず暖かさですが、北風が吹くと厳寒の冬を感じます。新年を迎え、今年も平穏無事な一年でありますようにと願っていますが、地球温暖化が進み、世界的な異常気象になっている現状では今年がどんな年になるかは予測できないところではあります。

予測といえば、日本の人口は2008年の1億2808万人をピークに減少し、高齢者の割合が増えていくことは予測通りになっています。不足する労働人口を補うべく、「出入国管理及び難民認定法」(入管法)の改正が行われ、移民を認めることになりました。いろいろな意見がありますが、現在の科学技術では不足する労働力をすべてロボットに置き換えることは困難であり、人手に頼らざるを得ないことが多くあることも確かです。訪日客が増えたため、観光地のほかに身近な街角や電車やバスの中で外国人を見かける機会が多くなり、グローバル化したと言わんばかりですが、これからは働く外国人の姿を見かける機会も増えていくことになるでしょう。既にコンビニや居酒屋の外国人店員は流暢な日本語で接客し、違和感がなくなってきましたし、駅や百貨店などのインフォメーションでは日本人と外国人のスタッフが一緒にいるのを見かけます。在留の外国人とうまく付き合うには互いに理解し合い、日本人の意識が島国根性から変革していくことが大切であると思います。

さて、平成も残すところ4ヶ月弱となりました。昭和生まれの者としては、3度目の年号であり、平成を間に昭和が遠い昔に感じられます。平成時代の30年は、昭和から続くバブル景気で始まり、バブルが弾けてその後遺症が長く続きました。そのために、今の日本人は総じて明るい未来を想うことが少なく、ネガティブ思考ということになります。若い世代が減り、日本の活力が減少してきていることあるでしょうが、日本の科学技術力は衰えていませんし、これからも発展していくと思います。一人ひとりが「夢」を描いてポジティブに生きていけば明るい未来が開けると信じます。

本年も皆さんと皆さんのご家族のご健康と、皆さんの会社のますますの発展を祈念して、新年のご挨拶と致します。

《INDEX》

本部報告	2
日本包装管理士会 選定 2018年包装界・10大ニュース	3
支部だより	4



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.126

ipp
news

ipp news
2019年1月25日発行
編集人／荒井拓哉
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

新しい年を迎えて

公益社団法人日本包装技術協会
専務理事 越野 滋夫

2019年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本漢字能力検定協会が昨年（2018年）を表す漢字に「災」を選定いたしました。文字通り、地震（大阪・北海道）、豪雨、猛暑、台風などの多くの自然災害がわが国を襲いました。当会が主催する包装管理士講座も北海道地震、西日本豪雨の影響で、専門科目、ケーススタディの開催が危ぶまれましたが、札幌会場受講者へは、ケーススタディの後日の補講という形をとり、全会場なんとか終講する事ができました。包装管理士会関係者のご理解とご協力に感謝申し上げます。

包装管理士講座は、昨年度は53期を迎え、受講希望者の全員の受け入れを目標に宿泊研修の2部制、すなわち「生活者包装」と「輸送包装」の2回に分けてオリエンテーションとケーススタディを開催し、定員増を図りました。その結果、応募者全員を受け入れ、全5会場総計497名に受講して頂きました。この宿泊研修の2部制は数年続ける事になると思います。昨今の「物流」活性化には高度な「包装技術」が要求され、その技術を支える人材もますます必要とされています。当分の間、包装管理士講座受講者は増える事はあっても減少する事はないと見ています。

さて、私が最近なるほどと思った国指定史跡「戒石銘」をご紹介します。これは、福島県二本松市の二本松城社に所在するもので、二本松藩丹羽氏5代藩主丹羽高廣公が藩士の戒めとする為、石に刻ませたもので、「爾の俸、爾の禄は 民の膏 民の脂なり 下民は虐げ易きも 上天は欺き難し」と書かれています。文字通り意味は、単純ですが、この境地になる事は大変難しいと思います。例のカルロス・ゴーン氏もその戒めを知っていれば、高額な俸給を支えていたのは全世界の社員の努力だったと気づいたはず。当会も貴会をはじめとする多くの会員、協力団体が支援している事を肝に命じて世の中の役に立つ「協会」を目指して参りたいと思います。日本包装管理士会はその名の通り、包装のプロフェッショナルの集団でございます。日本包装技術協会もわが国の包装技術の高度化の推進の一つのキーワードに、日本包装管理士会の皆様方のご支援ご協力を得て、様々な「包装」の課題に取り組んでいきたいと思っております。また、本年10月には「暮らしの包装商品展」がKITTE（東京駅）において開催されます。日本包装管理士会におかれましても様々な場面で同展にご協力をお願いする所存でございます。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして一層の飛躍の年でありますようお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



「2019年包装界合同新年会」会場にて IPPのメンバー

日本包装管理士会選定 2018年包装界・10大ニュース

1. 脱プラスチック、レジ袋有料義務化の動き

使い捨てプラスチックの海洋汚染を防ぐため、環境省は2030年までの数値目標として、レジ袋、ストロー、スプーン、皿などの使い捨てプラスチック排出量の25%削減を策定中。法改正を軸に、2020年度までにレジ袋は原則有料化を目指す。更にバイオマスプラスチックや紙などの代替材料に切り替えを行う企業に対し、補助金制度を創設する動きも明らかにされた。設備リサイクル工程にかかった費用の半額から3分の2を補助するという。

2. 海での生分解プラスチックの国際規格化が進む

自然界に捨てられたプラスチック廃棄物は太陽光等により、マイクロプラスチックとなり、海の生態系に悪影響を与えると恐れられ人体への悪影響も心配されている。2017年11月には大手化学メーカーの生分解性プラスチックが海中の微生物でも分解されるとベルギーの認証機関「ヴァンソット」に認められた。この原料は100%植物由来のプラスチックであり、30℃の海水で6ヶ月以内に90%以上が水と二酸化炭素に分解される。海中での分解評価の手順等、ISO規格の原案が2018年9月に作業部会で承認され、今後各国による投票を経て2020年正式に発行される予定。

3. 日本を襲う自然災害、包装業界にも影響

2018年は日本列島を襲う自然災害が目立つ年でした。中でも7月の西日本豪雨、8月の東北地方の記録的な大雨、9月の北海道胆振東部地震は大きな被害をもたらした。物流の停滞と地域の工場が影響を受け、北海道胆振東部地震では地震後の停電で製紙工場や大手印刷工場が一時的に操業停止に追い込まれた。

4. 作業が容易な包装資材の開発進む

商品の中身と包装資材が簡単に分離出来る包装資材が開発されている。「スルトとボトル」はマヨネーズメーカーと容器メーカーが開発したブローボトルであり、容器の内側にマヨネーズの原料と同じ植物油でごく薄い皮膜を作り、中身が自然に流れ落ちる様にし、使い易さと食品ロス防止に役立っている。

また、ケーキ用サイドフィルムは、ケーキを取り出す時に、クリームがサイドフィルムに付着しなくなり、見た目の悪さや廃棄分別の厄介さ解消、食品ロス削減に役立っている。新たな「トーヤル・ウルトラロータス」は表面に微細凹凸加工を施し、油の接触角度が150度以上で油がフィルム表面を弾く構造にし、優れた撥油フィルムを実現した。今後はレンジパネル、換気扇、ガスマット等の展開も視野にしている。

5. 段ボール新技術 ～デジタル印刷機や包装容積圧縮包装システムなど～

日本でも段ボール用デジタル印刷機が導入された。原紙プレプリント機、段ボールシート印刷機が共に稼働し、美粧印刷や多品種、生産者個別表示などで多大な効果が期待される。

また、包装を自動的に最適化して空間ロス削減（容積圧縮）や詰め物の削減に効果を発揮する包装システムが通販大手や宅配物流センターなどで稼働した。

このような段ボール新技術の支えもあり、日本の段ボール生産量は2017年に約142億㎡と史上最高生産量を記録した。2018年も10月末で対前年比101.3%と漸増し、生産量記録を更新する勢い。

6. モノマテリアル化が最優先課題に浮上

世界的にSDGs（持続可能な開発目標）達成への取り組みが広がるなか、グローバルブランドが相次いで包装資材の完全リサイクル方針を表明、包材へのモノマテリアル化（単一素材化）要請が増加し、業界各社は対応を迫られ始めている。「TOKYO PACK 2018」でも大手コンバーターが展示、今後も複数のコンバーターからモノマテリアル素材の包材が公表される予測。

7. 米中貿易摩擦により、中国が日本から古紙を爆買い

米中貿易摩擦により米国からの輸入古紙に中国政府が25%の報復関税を8月から課したため、米国からの輸入が止まり、日本の古紙を爆買いしている。日本の通販業者などエンドユーザーによれば、段ボール製品の価格は、古紙や燃料高と需要増などで3月に7%ほど上がったが、この爆買いの影響などで、2019年早々に5～10%の値上げを通告されているとのこと。段ボール製品の値上げが続いている。

8. アジア各国が資源ごみの輸入を制限、国内に廃プラスチックが滞留

中国は2017年7月から廃プラスチック、使用済み繊維、古紙などの輸入を段階的に制限し、2017年末に廃プラの輸入を停止した。2018年には日米欧の資源ごみの輸出先が中国からタイ・ベトナム・マレーシアなど東南アジアへ変わったが、東南アジア各国では環境意識の高まりから、急増する国外からの資源ごみへ反発が強まり、輸入を制限する動きが始まっている。日本からアジア向けの資源ごみの輸出は滞り、すでにストックヤードに溢れている。ごみ削減とともに、国内での資源ごみ粉砕・選別・洗浄などの能力増強が急務となっている。

9. JIS法改正（産業標準化法）、日本工業規格（JIS）から日本産業規格（JIS）へ

平成30年度第196回通常国会において、「不正競争防止等の一部を改正する法律」が可決成立し、工業標準化法の一部改正され産業標準化法に変わり、日本工業規格（JIS）が日本産業規格（JIS）に変更される。この法律は平成30年5月30日公布、2019年7月1日施行される。経産省HPによると、第四次産業革命の下、様々な環境変化に対応するための改正のポイントは、①データ、サービス等への対象拡大、②JISの制定・改正の迅速化、③JISマークによる企業間取引の信頼性確保、④官民の国際標準化活動の促進を図るためと紹介されている。

10. 「TOKYO PACK 2018」開催

「TOKYO PACK 2018」は2018年10月2日(火)～5日(金)、東京ビッグサイトで開催された。今回のテーマは「考えよう 地球をまもるパッケージ」で、サステナビリティ・サーキュラー・エコノミーや食品ロス、SDGsに対して寄与する製品などが紹介された。海外からの出展者増加もあり、出展社数は700社（前回から31社増加）、入場者数も20万9049人と前回は上回った。また、日本で1967年に創立総会が行われたアジア包装連盟の創立50周年を祝う行事も同時に開催された。日本包装管理士会も同展に出展し、本部・支部における日常の活動状況を紹介した。

北海道支部だより ●●●

北海道支部長 酒井 幸彦 (36期)

IPP会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひ致します。

昨年は非常に大変な一年でした、昨年の世相の漢字【災】で表されるようにまさにこの一字に尽きると思ひます。6月に大阪北部地震、7月には中国、四国地方を襲った台風、更に夏には異常とも思える猛暑で熱中症にて亡くなられた方も多数おられ、9月に入り四国、関西へ台風上陸し、私の住んでいる北海道では胆振東部地震が発生し多くの方が犠牲となりました。災害に合われた方へ心よりお見舞ひ申し上げますと共に災害大国日本に暮らす我々にとっての警鐘として、心しておかなければならないと感じました。

又環境面ではプラスチックゴミが話題になり、業界を挙げて削減に取り組む方向となり、包装業界に携わる者として環境に充分留意し、地球に感謝しながら仕事をして行こうと気持ちを新たに致しました。

2019年は元号も代わり、災害のない一年となりますように、又IPP会員の皆様のご健勝と、所属企業様の益々の繁栄をご祈念申し上げます。

【包装懇話会開催】

11月8日に札幌すみれホテルにて「食品・飲料等の品質保持に関する包装技術について」と題して、凸版

印刷生活・産業事業本部 ビジネスイノベーション開発本部第一開発部長 小谷 直己氏を講師に招いて講演をしていただき、多数の出席者にて盛況のうちに終了致しました。

【第53期包装管理士合格証書授与式】

11月8日に札幌すみれホテルにて合格証書授与式を開催、今期は受講者15名全員が合格し、JPI越野専務理事より合格証書を受け取り第53期包装管理士が誕生いたしました。その後行われた懇親会では企業の垣根を越え和気藹々の内に終了し、その後2次会でも盛り上がったようでした。今後の活躍を期待しております。



第53期包装管理士の皆さまとの懇親会

西日本支部だより ●●●

西日本支部 副支部長 上橋 健一 (29期)

西日本支部は会員間の交流の場として、見学会、研究会、講演会などを主体とした活動を進めています。

西日本支部は会員減が続く厳しい状況ですが、JPI西日本支部殿と連携しながら、会員の皆様へ魅力ある企画を目指しています。

◆講演会

JPI西日本支部、日本倉庫協会との共催事業で講演会を開催しました。

イオン九州(株) 立石様より、様々な販売分析や顧客のニーズを先取りした商品開発についてご講演いただきました。

- ・日 程：2018年7月25日 (水) 13:30～14:30
- ・場 所：インペリアルパレスシティホテル福岡

- ・テーマ：売れている商品には理由があります
- ・講 師：イオン九州(株) 商品本部
顧問 立石弘司様
- ・参加者：20名



講演会の様子

P4から続く→

◆輸送・包装研究会

JPI西日本支部、日本倉庫協会との共催事業で「輸送・包装研究会」を開催しました。

(株)東洋紡パッケージング・プラン・サービス羽馬様より、ASEANでも成長の著しいプロパックベトナム2018の視察報告とベトナムの包装産業及びミャンマーの現状と包装産業を中心に解説していただきました。

- ・日程：平成30年8月24日（金）14：30～16：00
- ・場所：福岡市赤煉瓦文化館
- ・テーマ：世界の中でのASEAN市場の位置づけと今後の方向
- ・講師：(株)東洋紡パッケージング・プラン・サービス 教育情報部 主任 羽馬友子氏
- ・参加者：20名



輸送・包装研究会の様子

◆包装研究発表会

JPI西日本支部との共催事業で「包装研究発表会」を開催しました。各社の先進的な研究成果が発表され、質疑が活発に行われました。

- ・日程：平成30年11月2日
- ・場所：西鉄イン福岡
- ・発表事例：
 - 「包装材の統一による包装材保管スペースの改善」
TOTO(株) 衛陶設計部 衛陶生産設計グループ
山下龍太郎氏
 - 「紙表刷り印刷による軟包装材への偽造防止性能付与」
凸版印刷(株) 第四製造技術部
西日本生産技術チーム 山口恵介氏
 - 「車いす洗面の緩衝材変更による包装改善」
TOTO(株) トイレ空間商品開発部
トイレ空間包装印刷分グループ 長川泰士氏
 - 「シュリンク台紙包装における台紙部加飾による接着強度変化の調査とその対策」
(株)フジシール 技術センター包装技術部
西田隼也氏

「強化段ボール製輸出用積み重ね箱の開発」

(株)安川ロジステック 品質保証部

西部開発技術課 梱包設計員 平川宏氏



包装研究発表会の様子

◆第53期 包装管理士合格証書授与式

西日本会場では39名の包装管理士が誕生しました。授与式の後には懇親・交流会を開催しました。IPP西日本支部藤生理事より激励の挨拶をしていただき、たいへん盛会でした。

- ・日程：平成30年11月2日
- ・場所：西鉄イン福岡
- ・進行：JPI本部 越野専務 挨拶、合格証書授与
IPP西日本支部 中村支部長 挨拶
優秀合格者金賞授与 凸版印刷(株)
山口氏 挨拶



JPI越野専務理事から合格証書授与



第53期包装管理士の皆さまとの懇親会

◆今後の活動予定

- ・輸送・包装研究会
- ・見学会

中部支部だより ●●●

中部支部事務局 長田 恵子

【第53期包装管理士の誕生】

10月26日に岡部支部長が列席して第53期包装管理士合格証書授与式が開催されました。今年度は名古屋会場で77名の新包装管理士が誕生し、更に優秀合格者として銀賞を東海紙器㈱星野妙子様、銅賞を三甲㈱市橋隆様の2名が受賞され、名古屋会場ひさびさの快挙となっています。



授賞式風景



銀賞受賞 星野妙子様

昔は男性ばかりだった講座も今や女性の頑張りはずごい!! 男性と同じように業務と並行で勉学されて優秀合格者となっています。これからの包装に女子力をぜひ発揮してほしいものです。



岡部支部長IPP入会のお誘い

授与式終了後、岡部支部長からIPPの説明をして今後のお仕事に生かせる人脈作りや包装技術向上のための情報収集にと、入会の勧誘をおこないました。

その後の交流会には来賓としてIPP中部支部幹部が出席して、サプライズで岡部支部長より出席した新包装管理士の中で次に成績が優秀だった、輸送包装コースのJSR㈱村上尚嶺様と生活者包装コースのホーユー㈱佐藤史章様の2名に「頑張ったで賞」を贈呈しました。この賞は合格を手にするために協力いただいた同僚や家族の皆さんへ感謝の気持ちとして渡せるお菓子となっています。和気あいあいの中、吉沢副支部長から最後にもう一度入会のお誘いをして管理士会をPRしました。



頑張ったで賞贈呈



吉沢副支部長

【新企画 2018日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会の風景】

今年度からJPI共催の新企画として、中部地区会員の皆様が2018日本パッケージングコンテストで入賞された作品を発表いただく会を始めました。東京で開催

P7に続く→

P6から続く→

する東京パックや暮らしの包装展でしか見ることが出来なかった入賞作品の「工夫やアイデアを見て・聞いて・知る」ものです。沢山の入賞作品の中から6件の発表に、定員を大幅に超過する93名の参加があり盛会に開催しました。



GP入賞作品発表会風景

東北支部だより ●●●

東北支部 事務局長 斎藤 昇 (13期)

年号が変わる年になりました。

会員皆さんは現在の今上天皇が何代目かご存じでしょうか。125代目です。では年号は何回変わったのでしょうか。現在の今上天皇で247回(新聞記事より)です。一人の天皇で8回年号が変わった時代がありました。但し明治以降は天皇一代に一つの元号とする「一世一元」の制度が確立しました。1300年以上続く元号は日本独自の時代を映す象徴として、新元号はどのような元号になるのでしょうか。

さて、支部活動ですが各行事への参加者が少なく活発に活動しているとは言い難いのですが、125号では支部総会まで報告しましたのでその後の活動を報告します。10/23(火)にJPI主催の「企業見学会」を開催、JPI東北支部のある仙台商工会議所会館前集合バスでYKKAP(株)東北製造所へ、住宅やビルの建材(主に窓やドア等)を製造しており、H17年には地域の環境づくりに貢献したとして「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受けた工場でもあります。



YKKAP(株)東北製造所 見学会

次に向かったのはトヨタ紡織東北(株)宮城工場自動車用シートの専門工場、近くにある3種類の車を製造しているトヨタ自動車東北の生産ラインに(生産台数)リンクさせているとの事。

11/5(月)53期包装管理士講座の合格者による包装論文の発表会と合格証書授与式、合格者を囲む会

等を仙台商工会議所会館で行いました。今年は受講生全員(15人)合格し、11人の方に発表して頂きました。授与式ではJPI本部より園山理事事務局長をお迎えして行いました。



第53期生のレポート発表会



JPI園山理事から合格証書授与



第53期生合格者を囲む会での集合写真

P8に続く→

P7から続く→

11/27 (火) には包装研究会を開催

テーマ「アクティブパッケージ・インテリジェントパッケージの動向」

講師 一般社団法人 日本食品包装協会
理事長 石谷孝祐氏

テーマ「農産物の包装資材の歴史と課題」

講師 (株)精工 代表取締役会長 林 健男氏

次回行事は 31年1月16日 (水)

新春講演会 テーマ「ドローンの技術、規制、利活用の最新情報」

講師 一般社団法人 日本ドローンコンソーシアム
会長 野波 健蔵氏

新年名刺交換会 (上記講演会後)

場所：仙台市内 江陽グランドホテル

上記行事の実行委員は毎年管理士会支部会員が務めております。



11/27包装研究会

関西支部だより

関西支部 細田 基則 (13期)

2018年度活動が6月20日の「第9回W会との合同研究会」(8月号に掲載)を皮切りにスタートしましたが、7月18日に予定していました(株)ナミコスの見学会&セミナーは大阪北部震災と西日本豪雨の影響で延期となってしまいました。災害の様子はマスコミ等で連日報道されましたので、皆様もご存じの通りです。

その後、9月と12月にミニセミナーを開催し、2月と3月に残りのミニセミナーを開催しますので、ご参加お待ちしております。10月には第53期包装管理士講座合格証授与式に協賛し、桃川支部長が包装管理士会への加入参加をPRしました。新しい会員が増えることを願っています。

◆ミニセミナーの開催

◇第37回 9月21日

「印刷の色とカラーマネジメント」

講師：東洋インキ(株)カラーソリューションセンター
GL 岩淵敏文氏

「ソリュブルコーヒー詰替え用パッケージの開発と市場動向」

講師：今田包装技術企画代表 今田克己氏



「セミナー風景」



「岩淵講師」



「今田講師」

◇第38回 12月5日

「機能性段ボールの用途展開と低摩擦段ボール“コスレン”の開発」

講師：レンゴー(株)中央研究所

商品開発第一部課長 藤本丹民氏

「パッケージトピックス」

講師：凸版印刷(株)トッパンアイデアセンター

商品企画チーム課長 上森功規氏



「藤本講師」



「上森講師」

セミナー後の交流会は、サントリーバー&ダイニング“カーナバル”の好意によりシャンパンで乾杯、少し早めの年忘れ会として懇親を深めました。



「講師との交流会」 右手前：藤本講師
その奥：上森講師



「交流会集合写真」

◆第53期包装管理士講座合格証授与式に協賛

◇10月26日 於：ハートンホテル北梅田



「祝辞を述べる桃川支部長」



「第53期生と下茂副支部長」

関東支部だより ●●●

SDGsとイノベーションとIPPコミュニ亭

関東支部 理事 道明 誠 (23期)

IPP会員の皆様、明けましておめでとうございます。企画担当理事の道明です。昨年(2018年)の包装界10大ニュースは、環境問題に関する記事が半分を占めて注目すべきトピックとなりました。また昨年11月には、「2025年日本(大阪)で万国博覧会開催決定」のビッグニュースが飛び込んできましたね。この2つの話題ですが共通するキーワードは、何だと思われませんか？ そうです。SDGs(持続可能な開発目標)です。SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年国連総会で採択された目標のこと。貧困や飢餓、教育、環境など多岐にわたり17の目標が定められ、「2030年はこうありたい」と、193か国の人が意思決定されたものです。いかなる未来予測よりも確実な姿を描いた地球規模の設計図と言われています。またこれは歴史に残る偉業とおっしゃる方もいらっしゃると思います。そんなSDGsの17目標は、実は簡単に達成できるものではなく、「現在」と「未来」のギャップは、かなり大きいとされています。地球規模の凄まじく大きな差分にはビジネスチャンスがあり、それは「イノベーション」によって生み出されると考えられています。企業は今、どうしたら「イノベーション」を興すことができるのでしょうか。イ

ノベーションの専門家はこう語ります。「自分から離れた遠くの知というのを幅広く探索しよう。これがイノベーションには決定的に重要です。」限られた枠の中で一生懸命考えても、すでに過去考えつくされているので、新しいものは生まれてこないと。ですから会社にいる皆様は、積極的に外へ飛び出して「遠くの知」を求める必要があります。関東支部では、昨年「IPPコミュニ亭」を立ち上げ、異業種交流によるBBQ企画を行いました。私たちは、せっかく包装管理士という称号を取得しましたので、もっと皆さんが交流し「遠くの知」を求め情報交換の機会を持ったほうがいいですね。普段顔を会わさない管理士の皆さんが「つながる」ことによって、新しい発想や考え方に触れることができます。交流によって新たなムーブメントが生まれるかもしれません。仕事のストレス解消にもなるでしょう。そんな交流のカタチを支援していきたいというのが、「IPPコミュニ亭」という企画です。「風が吹けば桶屋が儲かる」的な話となりましたが、人と人をつなぐ活動「IPPコミュニ亭」を引き続き計画してまいります。次回企画では皆様のご参加をお待ちしております。

第53期包装管理士合格証書授与式 (東京会場)

関東支部 事務局

2018年10月19日(金)、秋葉原UDXにおいて第53期包装管理士「東京会場合格証書授与式」が行われました。第53期の合格者は、全国で497名、東京会場では、245名の新包装管理士が誕生しました。合格証書授与式では、日本包装技術協会 越野専務理事から合格証書が授与され、優秀合格者が表彰されました。東京会場での優秀合格者は銀賞：加藤幹子殿(丸美屋食品工業(株))、長田真一郎殿(レンゴー(株)) 銅賞：中澤大將殿(雪印メグミルク(株))、横川泰樹殿(株)ロッテ)、山本 浩之殿(富士物流(株))、田村佑貴殿(アサヒビール(株))の皆さまです。その後、日本包装管理士会山田孝志会長の来賓祝辞、古平篤関東支部長の乾杯の音頭により、懇親会が行われ、新包装管理士と大いに語り合いました。



JPI越野専務理事から優秀合格者表彰

「第1回 IPPコミュニ亭」を開催

関東支部 理事 道明 誠 (23期)

人と人をつなげる新企画「第1回 IPPコミュニ亭」を、2018年10月14日(日)に開催しました。包装管理士同士の情報交換を目的に、最上級のお肉、お野菜、ワインなど食べ放題・飲み放題のBBQ企画で、包装管理士8名+家族が参加しました。ところが本企画、フタを開けてみれば参加者総勢45名(+お子様6名)の大異業種交流会となりました。当日はやや肌寒い日でしたが、気持ちの良いBBQ日和となり、中小企業診断士、キャリアコンサルタント、企業の社長さん・部長さん・若い方々が一同に集まり、初対面なのに意気投合。「ぜひ○○の会を作りましょう!」といった話題が飛びかい熱気あふれた楽しい交流会となりました。参加者全員が大満足、今後もこのような「IPPコミュニ亭」企画をご案内いたします。次回は包装管理士の皆さんも大集合しましょう!



参加者総勢45名の大異業種交流会となった第1回 IPPコミュニ亭

「スキルアップセミナー 2018 第1回」開催

関東支部 理事 大濱 健司 (38期)

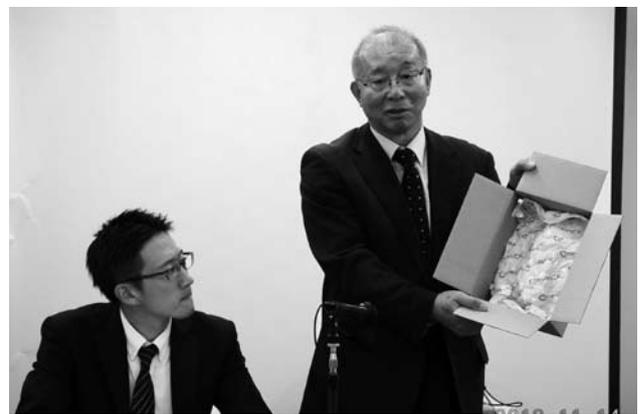
スキルアップセミナー 2018は、「高機能性フィルム～食品包装から工業包装分野まで」をテーマに、11月14日(水) 15:30から文昌堂貸会議室において開催しました。

参加者12名で、(株)武田産業 森勇士氏、野田哲三氏両講師より各種フィルムの特徴や用途について説明がありました。

武田産業は革製品からフィルムと幅広く創立110年を迎える企業で食品、工業製品向けのフィルムの製造・販売そして開発を手掛けています。関連会社ではランドセルからファッション鞆まで製造販売しています。

今回、遮光フィルムは金属探知にパスする様にアルミレスで医薬、食品、工業と幅広く使用され成長しているオレフィン系フィルムが紹介され参加者よりガスバリア性、透湿性、レトルト性等の専門的な質問が寄せられました。また、包装梱包分野で使用されているウレタン系オレフィン系伸縮フィルムは通販や精密機器の緩衝・固定に使用されていると紹介されました。

次回の開催希望テーマとして、「社会問題となっているナノプラスチックの現状とプラスチックに代わる素材に関して」が提案されました。



(株)武田産業 森勇士氏、野田哲三氏

「第5回包装研究会」を開催

関東支部 理事 大川 和康 (23期)

2018年11月28日(水) 18:30から、(株)文昌堂10F貸会議室において、第5回包装研究会を開催し、会員・講師を含め10名の参加がありました。

今回は、技術士・包装管理士としてご活躍中の、住本充弘氏を講師にお迎えしました。住本講師は、住本技術士事務所の代表で、日本包装コンサルタント協会の会長を務めておられ、日本包装管理士会の会員としても活動しておられます。講演は「軟包装の最先端テクノロジー」についてわかりやすく解説していただきました。「これからは、表面のデザイン

が単なるグラフィックデザインではなく、スマホを利用したinteractive communicationの画面となるものが増加する」など日本では実施されていない、世界の最先端技術の具体的な情報が解説されました。講義後の質疑応答もいつになく活発に行われました。

講義の内容が、素晴らしいので、セミナーで取り上げてはどうかとの意見もありました。



住本充弘氏

2018年秋の見学会

関東支部 理事 福野 壽史 (16期)

9月4日(火)に京葉工業地帯の主力工場2社朝日プリンテック(株)船橋工場と、サッポロビール(株)千葉工場を見学しました。

朝日プリンテック(株)船橋工場は千葉県と東京東部に配る朝日新聞を刷っている工場です。輪転機が稼働している様子、印刷方式、インク特性、配送・梱包エリアなどを見学させていただきました。新聞紙面を見る人が少なくなった昨今、参加者の皆様も新聞に関する認識が少し変わったかもしれません。

サッポロビール(株)千葉工場はサッポロビール8工場のなかでも首都圏の供給を担っている主力工場の一つです。この辺りは埋立地、運河もありの工業地帯。その一角で、とにかく広い(172000㎡)工場との印象です。マイクを掲げた案内嬢に先導され近代的な設備の整った工場を見学させていただきました。そして見学の最終時には、良く冷えたビールと美味しくいただける「ビールの注ぎかた」を教授いただきました。

見学後の情報交換会の会場は海のそばで景色よし、園内も綺麗、料理も美味しいと3拍子揃った清潔感のある、と言う印象です。参加人数が9名と少なかったが情報の共有や交換もできたのではないかと感じました。



朝日プリンテック(株)船橋工場見学



サッポロビール(株)千葉工場で「ビールの注ぎかた」を教授いただく

IPP写真研究会 活動報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲

当研究会は写真を通じて楽しさを共有する集まりです。会員は2018年末で18名、19年からは19名となります。関東支部からの活動支援金と研究会費で運営し、2018年後半は次の行事を開催しました。

8月25日(土)、日比谷図書館セミナールームで秋の写真展に向けての「作品準備会」開催。作品候補を持ち寄り、講師から助言を得た。「うすげぼー」でパワーランチ。9+1名参加。

9月8日(土)、臨時撮影会。四ツ木駅～荒川～中川～立石駅を散策。「そばがき」と「そば」、焼酎の蕎麦湯割りが好評。7+1名参加

10月18日(木)～23日(火)、横浜山手234番館で「第14回楽しい写真展」を開催。A3サイズで51作品を展示。入場者数960人。21日にポートヒル横浜で祝賀パーティ、港の夜景をバックに講師を囲み写真談義。

(写真は最終日に山手234館前で撮影)

11月10日(土)、秋季撮影会、迎賓館～新国立競技場～聖徳記念絵画館をめぐる、九州料理で懇親会、大いに盛り上がる。9+1名参加。

12月11日(火)、JPIロビーに各会員の2018年ベストワン作品を展示。1月29日(火)終了。

2019年は1月末に伊豆撮影旅行、2月に総会・新年会など、年数回の撮影会と横浜山手234番館での写真展を開催します。また、講師による作品選びと仕上げのアドバイスや撮影技術の勉強会を行います。研究会に参加してみたいという方はIPP事務局へメールください。



「楽しい写真展」の会場、山手234館前で

2018年 忘年会を開催

編集後記

関東支部 理事 笹木憲一（18期）

平成最後の年の締めくくりとして、また、本部・関東支部役員、関東支部会員のより深いコミュニケーションの場として、赤坂陽光ホテルで忘年会を開催しました。遠方から駆けつけて下さった会員もおられ、美味しい料理とお酒を味わいながらIPPの将来について熱く語り合いました。後半はカラオケになり、皆さんの熱唱で大いに盛り上がりました。



赤坂陽光ホテルで 2018年忘年会

新年あけましておめでとうございます。平成最後の新年です。

昨年の定時総会で、10年ぶりに変更したIPPの定款（案）が承認されました。また会員のコミュニティをより活発にする活動も動きはじめました。今号の「支部だより」は、各支部とも従来にも増して記事も写真も多く、編集担当はうれしい悲鳴を上げています。

IPPが活性化していく兆しを感じています。本年も皆さまの積極的なご参加をお願いいたします。

荒井拓哉（12期）

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
http://www.ippj.net/

■本部	〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0004 札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	☎ : 011-241-8591 fax : 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893 岩手県一関市地主町3-35 株式会社 東北ウエノ内	☎ : 0191-21-4531 fax : 0191-21-5381
■関東支部	〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■中部支部	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南4-1-2-17 日通ビル2F 日本包装技術協会内	☎ : 052-563-7110 fax : 052-563-7123
■関西支部	〒550-0014 大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル4階	☎ : 090-4305-3906 (携帯・桃川) fax : 06-6606-8768
■西日本支部	〒838-0068 福岡県朝倉市甘木2144-11 中村包装管理士事務所内	☎ : 0946-22-3798 携帯 : 080-5263-2144

Copy & FAX 用切取線

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 fax : 03-3543-8970 ☎ : 03-3543-9250

フリガナ		氏名	会員番号	番	平成	年	月	日届
会社	社名							
	所属							
	住所 〒							
	TEL				FAX			
自宅	E-mail							
	住所 〒							
	TEL				FAX			
	E-mail							